






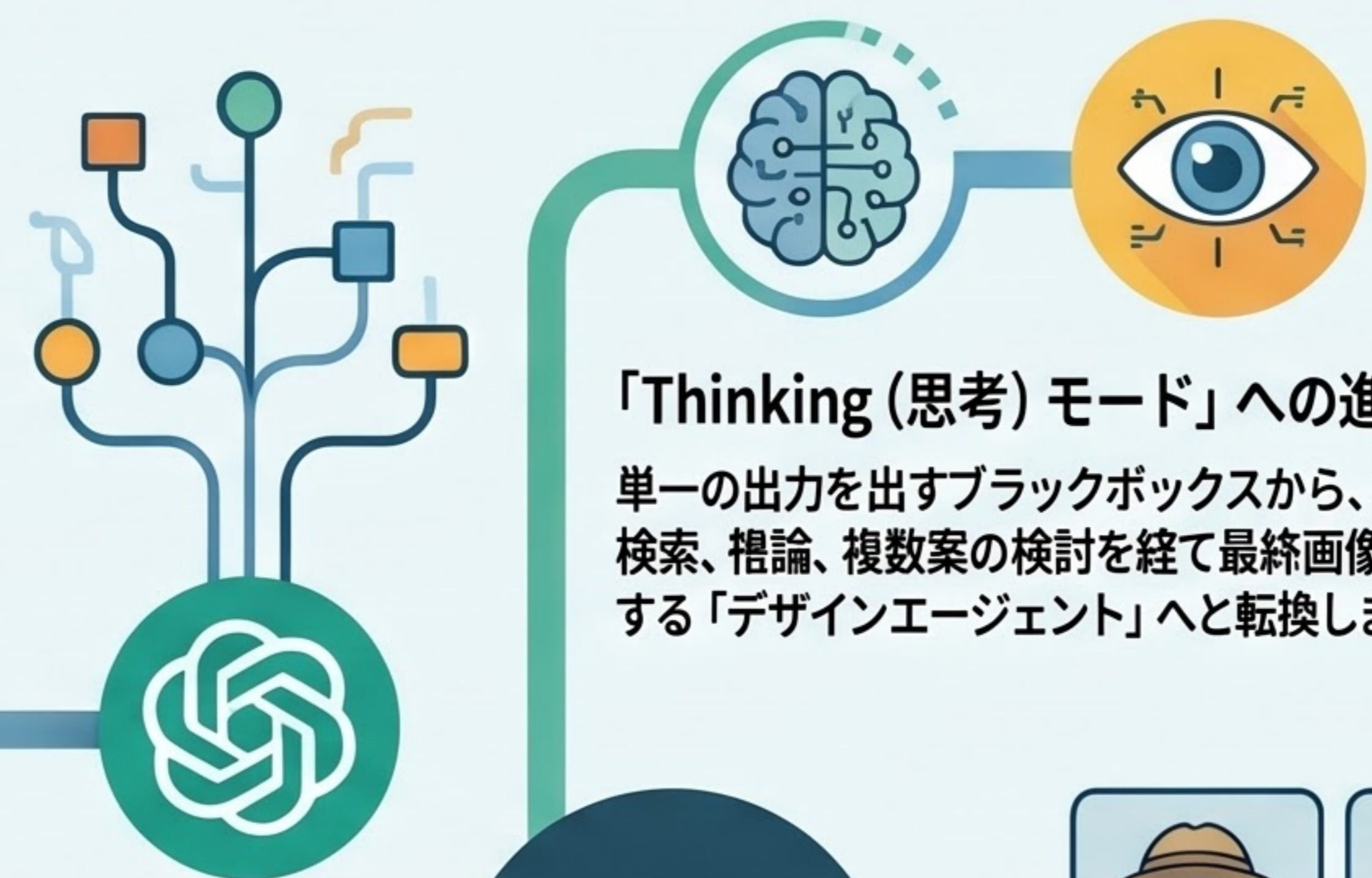
# ChatGPT Images 2.0 : 技術的革新と知財実務の新たな指針 (2026年版)

## 知財実務への4大インパクト

- 
**著作権**：人間の「創作的寄与」の証明が鍵  
原則としてAI生成物に著作権は認められませんが、  
詳細なプロンプト設計や編集過程を記録することで、  
人間の関与を証拠として示す必要があります。
- 
**商標**：AI画像検索によるクリアランスの必須化  
USPTOや日本特許庁がAI画像検索を導入しており、  
生成されたロゴが既存商標を侵害していないか、  
高度な調査が求められます。
- 
**意匠**：発明者は「自然人」に限定  
製品デザインにおいてAIはあくまでツールであり、登録  
には人間による「着想 (conception)」の証明が必要です。
- 
**パブリシティ権**：実在人物の生成リスク  
日本では2026年夏に「無断肖像・声の利用」に関する  
指針ガイドラインが策定予定であり、社内ルールの整備  
が不可欠です。



## 主要法域の比較表

法域	著作権の動向	商標・意匠の対応	パブリシティ権・その他
 日本	30条の4による学習容認 (改正議論中)	商標検索	
 米国	AI生成物への登録は 原則不可	USPTOがAI検索ツール を導入	著名人が商標権で対抗 する動き
 EU	AI Actによる透明性義務 (2026年8月)	EUIPOが審査基準を 検討中	GDPRとの複合規制
 英国	コンピュータ生成作品の 保護廃止を検討	登録の人間関与要件を 明確化	法制化の議論が進行中



## ChatGPT Images 2.0

## 透明性と出所証明 (Provenance)

- 
**2026年8月**：EU AI Actの適用開始  
AI生成コンテンツであることを明示する義務が  
課され、違反には厳格な規制が適用されます。
- 
**多層的なマーキング戦略**  
C2PAメタデータ、不可視ウォーターマーク、  
デジタル指紋 (フィンガープリント) を統合し、  
画像の出所を客観的に証明します。

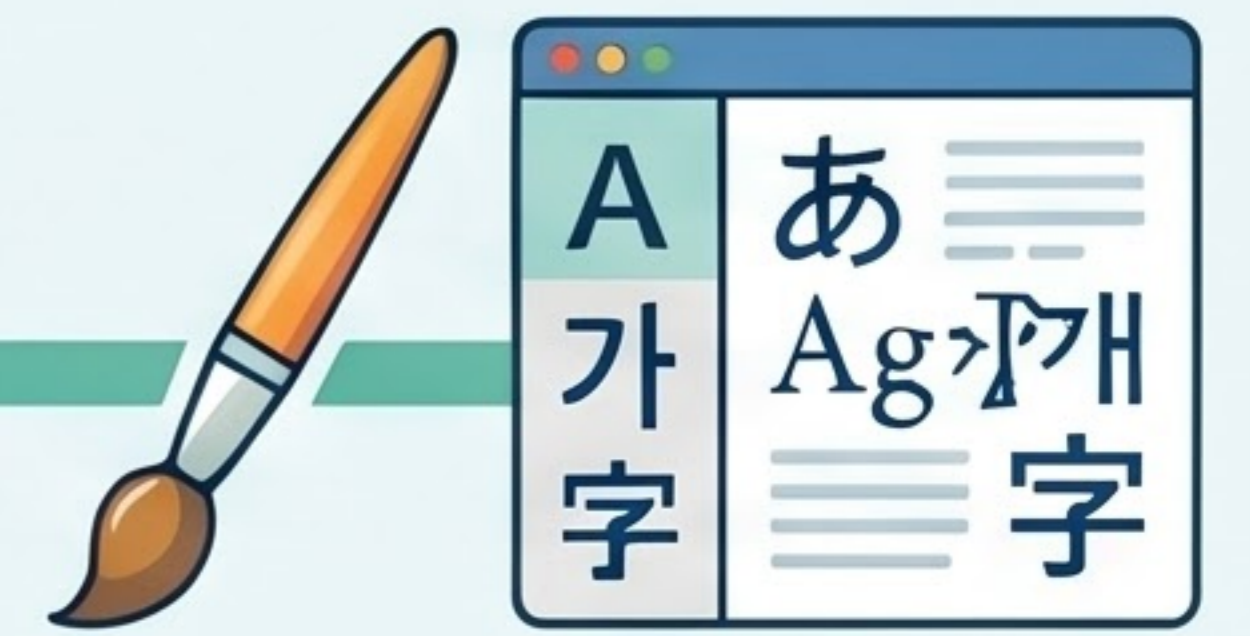
### 「Thinking (思考) モード」への進化

単一の出力を出すブラックボックスから、ウェブ  
検索、推論、複数案の検討を経て最終画像を生成  
する「デザインエージェント」へと転換しました。



### キャラクターとオブジェクトの 同一性維持

最大8枚の連続した画像で、特定の  
キャラクターやオブジェクトのピジュー  
ルを崩さずに生成することが可能です。



### 高度なテキストレンダリングと 多言語対応

複雑なタイポグラフィや、日本語・韓国  
語語・中国語を含む非ラテン文字を正  
確に描画できます。

## 実務家への提言



制作プロセスの厳格な記録  
プロンプトの設計、生成物の選択、  
人間による修正内容を保存し、  
権利主張の証拠とします。



社内ガバナンスの構築  
実在人物に類似する画像の利用  
制限や、C2PAメタデータの  
保持を義務付ける社内規程を  
整備します。